

## EUFD OPINIONS No. 26 (2019年4月15日)

### 技術経営塾で学ぶことで社会に貢献できる

理事長 西河洋一

4月からは、会社も学校も新しい年度が始まりました。5月からは、新元号「令和」の年になります。明るい時代の幕明けに際し、心新たな気持ちで令和をお迎えしたいと思います。5月末に「西河技術経営塾」の6期生が修了します。6期生を含めると29名の塾生が修了しました。塾での学びを生かして、幸せに暮らせる社会づくりに貢献する経営者になること期待しております。

日本の中堅中小企業の経営者は、経営学を学ばずに経営をしている方が多いのが現状です。経営者の指導にあたっては、豊かな社会づくりに貢献する企業であることを経営理念という形で掲げることが重要だと指導しています。経営理念は、企業の経営目標として従業員とともに事業を通していかに具現化することこそが経営だと考えます。「より多くの人々が幸せに暮らせる住環境を創造し、豊かな社会づくりに貢献する」は、筆者が社長を務めるホールディング会社の経営理念です。

塾生には「経営者は判断力が重要である」「その判断をするには、常日頃の情報収集を怠ってはならない」「経営者が仕事に組み込まれて、忙しく仕事をしてしまったら管理ができない、将来を描くことはできない」と話します。技術経営学の指導を受けた恩師の児玉文雄芝浦工業大学名誉教授は、「経営者には、多様な状況と判断があって、なかなか教えられるものではない」と言いますが、判断力の底辺にセオリーがあり、学ぶべき先人の教えがあります。基礎的経営知識と経営者としての心構えを学ぶことは重要です。

塾での学びを経営に生かし、それぞれ独自の特徴ある経営戦略で成果が見え始めてきました。経営は「未来学」であると教えています。5年とかの中長期計画を立てて、目指すべき夢の実現のために必要な人財を育成し、必要な資金を調達し、モノやコトの開発に取り組むことです。西河技術経営塾では、技術経営を教えています。企業経営は、どんな業種業態に関わらず技術がモノづくりやコトづくりを支えているからです。

— 以上 —